





アンスティチュ・フランセが、フランスの批評家、専門家、プログラマーらと協力し、最新のフランス映画を選び  
すぐって紹介する特集「映画批評月間～フランス映画の現在」。vol.01では、文化欄が充実しているので有  
名なフランスの大手日刊紙「リベラシオン」のジュリアン・ジェステール、vol.02では、世界中の才能ある映画作  
家たちの作品を見出し、支援している「アルテ・フランス・シネマ」のオリヴィエ・ペールが選定を担当しました。  
今回の上映では、vol.01、02で上映された新旧のフランス映画、珠玉の23本を一挙上映します。

現在の若手監督たちが撮ったこれらの作品は、  
まさに高い志や独特な想像力によって、  
使い古されたコードや時代が強いる陰鬱な運命に  
はっきりと抵抗を示していると言えるだろう。

インスピレーションに溢れた映画作家たちに  
耳を傾け、斬新な作品に寄り添い続けたいという  
私たちの意思は尽きることがありません。

———ジュリアン・ジェステール  
Julien Gester

「リベラシオン」文化部チーフ、映画批評家。1986年ストラスブール生まれ。2012  
年よりフランス日刊紙「リベラシオン」のジャーナリスト、映画批評家として活動、現  
在は同紙の文化部チーフを務める。それ以前は人気カルチャー雑誌「レ・ザンロ  
キューブティエール」に執筆、ラグジュアリーファッション誌「Mastermind」の編集  
長、「Grazia」フランス版創刊にも携わる。フランス、世界各地の映画祭、シネクラ  
ブなどでは日本映画、アメリカのコメディを積極的に紹介している。作曲家でもあり、  
映画音楽も手がける。

———オリヴィエ・ペール  
Olivier Pere

アルテ・フランス・シネマ ディレクター。シネマテーク・フランセーズで上映プログラ  
ムに携わりながら、「レ・ザンロキューブティエール」などで映画批評を執筆。その後、  
2004～09年カンヌ国際映画祭監督週間ディレクター、2008～12年ロカルノ国  
際映画祭アーティストック・ディレクターを務める。この間、富田克也の「サウ  
ダージ」、三宅唱の「Playback」などがコンペティションに選ばれ、2011年には青  
山真治（『東京公園』）が金豹賞（グランプリ）審査員特別賞を受賞。2012年以  
降はアルテ・フランス・シネマのディレクターを務め、フランスをはじめ、世界中の映  
画作家の作品を支援し、共同製作している。またアルテのサイトで定期的に映画  
評を執筆し続けている。

Information

セルジュ・ボゾン監督  
初期2作品を上映!



『モッズ』、『フランス』を35mm  
(英語字幕/日本語同時通訳付)で上映します。

開催日:2月14日(日)

13時～『フランス』 16時～『モッズ』

会場:アンスティチュ・フランセ東京  
エスバス・イマージュ

詳細はこちら▶<https://www.institutfrancais.jp/tokyo/>

映画批評月間

～フランス映画の現在をめぐって～  
vol.3 開催!

第3回目はスーヴェルヴァーグの監督たちを輩出  
したことで有名なフランスの映画雑誌「カイエ  
デュ・シネマ」の新編集長マルコス・ウザルによるセ  
レクションで、フランスの最新のベスト作品、そして  
知られざる名作をご紹介します。3月5日(金)にユ  
ロススペースにてオープニング特別上映を開催!

詳細はこちら▶<https://www.institutfrancais.jp/tokyo/>

「フランス映画の現在」を見る前に  
「アートハウスプレス ArthousePress/  
芸術電影館通信」で関連映像をチェック!

「ArthousePress/芸術電影館通信」では、Vol.2の  
作品を選定したオリヴィエ・ペール氏の作品解説  
やセルジュ・ボゾン監督のインタビュー、坂本安美  
さんのトークを見ることができます。映画を見る前に、  
また、映画を見た後にもチェックして、  
より深く、映画をお楽しみください。

<https://arthousepress.jp/>



## トークイベント

- ★2/20[土]各回上映前  
坂本安美による作品解説  
(アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム主任)
- ★2/23[火・祝]  
『ティップ・トップ ふたりは最高』上映後  
クリス・フジワラ(映画批評家)による  
ボゾン監督、モッキー監督に関するトーク
- ★2/27[土]『地上の輝き』上映後  
山崎まどか(コラムニスト)によるトーク  
「ギィ・ジル作品について」
- ★2/28[日]『シノニムズ』上映後  
宮崎大祐(映画監督)によるトーク  
23日、27日、28日トーク司会:坂本安美

映画批評月間

# フランス映画の現在

Mois de la critique — Nouveaux rendez - vous du cinéma français



※やむをえない事情によりイベント内容、ゲスト、作品及び上映時間が変更になる場合がございます。  
ウェブサイト(<http://www.eurospace.co.jp>)にてご確認の上、チケットをご購入ください。

2.20[土] \ 3.4[木]

### 2/20 [土] ★各回作品解説あり

- 11:00 アリスと市長 (105分)
- 13:15 シェエラザード (112分)
- 15:30 リベルテ (138分)

### 2/27 [土]

- 11:40 海辺の恋 (73分)
- 13:25 オー・バン・クベ (71分)
- 15:10 地上の輝き (102分) ★上映後トークあり

### 2/21 [日]

- 12:30 今晚おひま? (78分)
- 14:20 言い知れぬ恐怖の町 (90分)
- 16:20 ソロ (89分)

### 2/28 [日]

- 11:30 奇跡にあづかった男 (90分)
- 13:30 カプールのツバメ (82分)
- 15:25 シノニムズ (123分) ★上映後トークあり

### 2/22 [月]

- 11:30 シノニムズ (123分)
- 14:05 君は愛にふさわしい (107分)
- 16:20 カプールのツバメ (82分)

### 3/1 [月]

- 10:40 ワイルド・ボーイズ (110分)
- 13:00 リベルテ (138分)
- 15:50 ティップ・トップ ふたりは最高 (107分)

### 2/23 [火・祝日]

- 11:20 マダム・ハイド (96分)
- 13:20 赤いトキ (87分)
- 15:15 ティップ・トップ ふたりは最高 (107分) ★上映後トークあり

### 3/2 [火]

- 11:15 見えない太陽 (102分)
- 13:30 アリスと市長 (105分)
- 15:50 君は愛にふさわしい (107分)

### 2/24 [水]

- 11:40 20年後の私も美しい (95分)
- 13:55 ポール・サンチェスが戻ってきた! (101分)
- 16:00 ワイルド・ボーイズ (110分)

### 3/3 [水]

- 12:30 海辺の恋 (73分)
- 14:15 地上の輝き (102分)
- 16:30 今晚おひま? (78分)

### 2/25 [木]

- 11:20 僕らプロヴァンシアル (137分)
- 14:10 赤いトキ (87分)
- 16:10 宝島 (97分)

### 3/4 [木]

- 12:00 マダム・ハイド (96分)
- 14:10 宝島 (97分)
- 16:20 ソロ (89分)

### 2/26 [金]

- 12:10 奇跡にあづかった男 (90分)
- 14:05 シェエラザード (112分)
- 16:25 ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像 (85分)

### チケット [全席指定・定員入替制]

1回券=1500円/学生・会員・シニア=1200円

リピーター割引(半券提示)=1000円

※チケットは、劇場HP(オンライン)、窓口共に、ご鑑賞日の3日前から指定席で発売します。

主催:ユーロスペース/一般社団法人コミュニティシネマセンター

企画協力:アンスティチュ・フランセ日本 助成:アンスティチュ・フランセ日本本部

フィルム提供及び協力:バシスフェール/カルロッタ・フィルム/エチェ・フィルム

インディセールズ/ロブスター/MK2/フィルム・ブティック/キノフィルムズ/ロブスター・フィルム

モッキー・デリシャス・プロダクツ/ル・ブティ・ビュロー/SBS/東北新社

特別協力:笹川日仏財団/Bart.lab/ウォーター公園

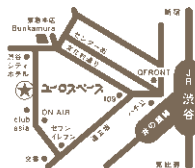


渋谷・文化村前交差点左折

ユーロスペース

EUROSPACE

03(3461)0211 eurospace.co.jp





## ポール・サンチェスが戻ってきた!

Paul Sanchez est revenu!

2018年/101分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:パトリシア・マズイ 出演:ローラン・ラフィット、ジタ・オンロ、フィリップ・ジラル

10年前に失踪した凶悪犯罪者・ポール・サンチェスが目撃されたという噂が広がる。警察署では誰もそのことを本気にしなかったが、若い警官のマリオンは違った。

●このような場所を映画に撮れるのはパトリシア・マズイを置いて他にいないだろう。丘陵、レ・ザルク、谷、国道…ラオール・ウォルシュの映画に見られるような広大な世界。ある人物の狂気が拡散し、やがてその狂気は集団の中へと波及していく。

——J.ジェステール



## ワイルド・ボーイズ

Les Garçons sauvages

2018年/110分/モノクロ&カラー/デジタル/フランス語  
監督:ベルトラン・マンデルゴ  
出演:ヴォイマラ・ボンヌ、ボリーヌ・ロリラル、ディアンヌ・ルクセル、アナエル・スノック、マチルド・ワルニエ、サム・ルーウィック、エリナ・レーヴェンソン

20世紀初頭。良家出身の5人の少年が卑劣な罪を犯してしまう。罪を償うため謎の船長に預けられた少年たちは、過酷な航海の旅へと進行される。ある無人島に座礁すると、そこには快楽を与えてくれる幻想的な植物が生い茂り、欲望に溺れる少年たちの身体は次第に変異していく。

批評家のドキュメンタリー  
ヌーヴェルヴァーグの映画批評家監督のひとりであり、誰もが敬愛した伝説的存在の真髄に迫る



## ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像

Jean Douchet, l'enfant agité

2017年/85分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:ファビアン・アジェージュ、ギヨーム・ナミュール、ヴァンサン・アセール

2019年に90歳で亡くなるまで、その類まれなる知性、教養、ユーモアによって、映画作家や映画ファンたちに影響を与えてきた映画批評家ジャン・ドゥーシェ。3人の若い監督たちがドゥーシェを追った貴重なドキュメンタリー。

●ジャンは映画の意味を目覚めさせる術を知っている。映画の送ってくる手紙を読み解くように。

——アルノー・デプレジャン



## 20年後の私も美しい

La Belle et la Belle

2018年/95分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:ソフィー・フィリエール 出演:サンドリース・キベルラン、アガット・ボニゼール、メルヴィル・プボー

大学生のマルゴは成り行き任せで日々を生きていたが、ある日、40代半ばの女性マルゴと知り合い、自分たちが40年の人生の異なる年齢を生きていることを知る。『イサドラの子どもたち』で透明感のある美しさで魅了したアガット・ボニゼールと、コメディエンスとしての才能抜群のサンドリース・キベルランがひとりの女性の20代と40代を軽やかに繊細に演じている。



## 僕らプロヴァンシアル

Mes provinciaux

2018年/137分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:ジャン＝ポール・シヴェラック 出演:オンドラニック・マネ、ゴンザグ・ヴァン・ベルヴェセレス、コランタン・フィラ

エティエンスは大学で映画を学ぶため、パリに出る。そこで映画への情熱を同じくするマティアスとジャン＝ノエルと出会う。しかし、時がたつに連れ、彼らの抱いていた幻想が変質していく。

●シヴェラックは、ブレッソン、ロメール、ユスターシュと同じような方法で、アナクロニズムを引き受けている。たとえば現在そのものを言葉の中に詰め込み、それを古くからの思想によってねじ曲げ、時を越えて語られる筋立ての中で純化させる。

——マルコス・ウザル



## シェエラザード

Shéhérazade

2018年カンヌ国際映画祭批評家月間出品

2018年/112分/カラー/デジタル/フランス語

監督:ジャン＝ベルナル・マルラン

出演:ディラン・ロベール、ケンザ・フォルタス、イディール・アズグザカリは17歳、刑務所を出所し、マルセイユの下町をぶらついてたところ、街角で客引きをするシェエラザードと運命的な出会いをする。しかし、ふたりは社会の荒波に巻き込まれていく…。本作は移民の街・マルセイユへのオマージュでもあり、出演者は現地でキャスティングされた。主演のふたり、そして監督はセザール賞新人賞を獲得、ジャン・ヴィゴ賞も受賞した。



## 宝島

L'île au trésor

2018年/97分/カラー/デジタル/フランス語

監督:ギヨーム・ブラック

パリの北西にあるレジャー・アイランドでのひと夏。世界の喧騒とどこかで響き合いながら、この場所には有料の海水浴場もあれば、人目につかない片隅、子どもたちが探求する王国もある。

●イルド・フランスのセルジュー＝ポントワーズにあるこのレジャー・アイランドは私の子ども時代の一部を成しており、今日でもなおとても鮮明な記憶と結びついています。——G.ブラック

J.ジェステール  
セレクション

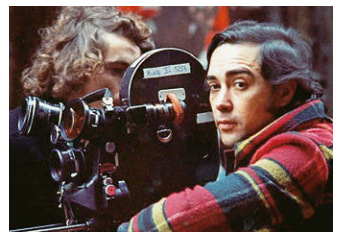
## ギイ・ジル

批評家が選んだふたりの映画作家の特集

ギイ・ジル  
Guy Gelles

アルジェリアの首都アルジェ生まれ。子どもの頃より映画ファンで、20歳で処女短編『消された太陽』を監督。アルジェリア戦争下の1960年、パリへ移住。ピエール・ブロンベルジェの援助により短編を監督、その中の『Au biseau des baisers』を気に入ったジャン＝ピエール・メルヴィルから援助を受けて初長編作品『海辺の恋』を3年がかりで製作、ロカルノ映画祭で批評家賞を受賞。長編第2作『オー・パン・クベ』は、M.デュラスから賛辞の言葉が寄せられた。3作目『地上の輝き』はイェール映画祭グランプリ、4作目『反復される不在』(72)はジャン・ヴィゴ賞を受賞。

●ユスターシュやガレルとさほど遠くなく、彼らの従兄弟のような存在でありながら、人目にあまり触れることなく映画を振り回していたギイ・ジル。忘却に抗う力を秘めていた彼の映画がようやく発見、再発見され、フランスをはじめ世界中で徐々に評価が高まっている。——J.ジェステール





## アリスと市長

Alice et le Maire

第72回カンヌ国際映画祭監督週間出品

フランス/2019年/105分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:ニコラ・ブリヂェ 出演:ファブリス・ルキエニ、アナイス・ドゥモスティエ、ノラ・ハマザウ

リヨンの市長ポールは、アイデアが一切浮かばなくなり、若き哲学者アリスに助けを求めること。『木と市長とメディアテーク』で高校教師を演じたルキエニが26年後、まさにロメール的コメディで、老いとともに人生を見つめ直す市長を、洗練した魅力で人気の若手女優ドゥモスティエがアリスを演じている。



## シノニムズ

Synonymes

第69回ベルリン国際映画祭金熊賞受賞

フランス=イスラエル=ドイツ/2018年/123分/カラー/デジタル/フランス語 R15+  
監督:ナダヴ・ラビド 出演:トム・メルシエール、カンタン・ドルメール、ルイーズ・シュヴァイヨット

●『シノニムズ』は、パリの空っぽのアパルトメントで凍えそうになった裸体と共に、象徴的な死とある誕生によって幕を開ける。物語は、祖国イスラエルからパリへと亡命し、文化、言語、国、すべてを白紙に戻し、未知の場所でゼロから生きることを選んだラビド監督自身の人生に着想を得ており、主役のヨアブは監督の分身であるだろう。——O.ペール



## 海辺の恋

L'Amour à la mer

1963年/73分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語  
出演:ジュスヴィエーヴ・テニエ、ダニエル・ムスマン、ギィ・ジェル、シモーヌ・バリ、ジャン＝ピエール・レオ

ジュスヴィエーヴは水兵のダニエルと海辺の街ドヴィルで落ち合い、愛し合う。ヴァカンスが終わり、ダニエルは Priest の駐屯地に、ジュスヴィエールはパリに戻り、再会することを待ち望みながら、それぞれの生活を送る。ダニエル同様アルジェリア戦争から戻ってきた水兵ギィの感情がふたりのそれと混ざり合う。監督自身がギィ役で出演している。



## 君は愛にふさわしい

Tu mérite d' un amour

第72回カンヌ国際映画祭批評家週間出品

フランス/2019年/107分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:アシア・エルジ 出演:アシア・エルジ、ジェレミ・ラウルト、ジャンヌ・ブジアニ

恋人レミの裏切りを知り、リラは苦しむ。ポリアに旅立ったレミから、二人の関係はまだ終わっていないと告げられ、さらに苦しむリラは、友人たちとの会話、新たな出会いの中でもかき、愛の行方を求めて彷徨う。A・ケシシュアやA・ギロデらの作品に出演している女優エルジの初監督作。カンヌ国際映画祭で「宝石のように美しいラブストーリー」と絶賛された。



## 見えない太陽

L' Adieu à la nuit

フランス=ドイツ/2019年/102分/カラー/デジタル/フランス語  
監督:アンドレ・テシネ 出演:カトリーヌ・ドヌーヴ、ケイシー・モッチェ・クライン、ウーヤラ・アマムラ

地方で農場を営むミュリエルは、孫息子アレックスがイスラム教に入信したことを知る。その教団がシリアのテロリストとつながりがあり、アレックスもシリアに向かうとしていることを知り、彼を引き止めようとする。ドヌーヴがもともと信頼を置く名匠アンドレ・テシネによって、大女優の魅力が最大限に引き出されている。



## オー・パン・クペ

Au pan coupé

1967年/71分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語  
出演:ノットリック・ジュアネ、マーシャ・メル、バルナル・ヴェルレ

ジャンスはかつての恋人ジャンを思い返し、今もその恋を生きている。ジャンは15歳で少年院に入り、ブルジョワ的な世界もビート族たちの世界も拒否して死んでいた。彼の死を知らないジャンスにはジャンが亡霊のように寄り添っている。

●この作品での愛は顔によって想起させられ—何度も繰り返して見せられる女性の顔、視線、—それにはただただ感嘆させられる。そう、こうした試みはこれまで一度も映画でなされたことがなかっただろう。——マルグリット・デュラス



## リベルテ

Liberté

2019年カンヌ国際映画祭「ある視点」部門受賞

フランス=ポルトガル=スペイン=ドイツ/2019年/138分/カラー/デジタル/フランス語 R15+  
監督:アルベール・セラ 出演:ヘルムート・バーガー、マルク・スジーニ、イリアーナ・ザバート、リュイス・セラ

『ルイ14世の死』の鬼才アルベール・セラがフランス革命前夜の18世紀の退廃貴族たちの性、欲望のありか、サド的世界に迫る。ルイ16世のピュリタンの厳格な宮廷から追放された自由主義者(リベルタン)たちは、伝説的ドイツ人公爵ワルシヤンの支援を求めて国境を越える。



## カブールのツバメ

Les Hirondelles de Kaboul

2019年カンヌ国際映画祭ある視点部門コンペティション出品

フランス=ルクセンブルク=スイス/2019年/82分/カラー/フランス語/アニメーション  
監督・脚本:ザブー・ブライトマン & エレア・ゴベ・メヴェレック

1998年夏、アフガニスタンのカブールはタリバン勢力の支配下に。ズナイラとモーセンのカップルは、暴力と悲惨な現実の中でも希望を持ち続けていた。歴史の中で翻弄される夫婦や恋人たちの日常のささやかなやり取り、感情が繊細に描かれ、心を打つ傑作アニメーション。スワン・アルローら、フランスで人気上昇中の俳優たちが声で出演している。



## 地上の輝き

Le Clair de terre

1969年/102分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語  
出演:ノットリック・ジュアネ、エドウィジュ・フィエール、アニー・ジラルド、ミシュリーヌ・ブレール

チュニジア生まれで、母の死まで幼年期をその地で過ごしたピエール、いまはパリのマレ地区に父親と住んでいる。突如、パリを離れる必要を感じたピエールはチュニジアの首都チュニスに向かう。そこでかつての教師に導かれ、自分の過去の足跡を辿る。

ジャン＝ピエール・モッキー  
Jean-Pierre Mocky

1933年ニース生まれ。フランス国立高等演劇学校入学後、俳優として頭角を現す。ルキノ・ヴィスコンティ監督『夏の嵐』で助監督を務めた後、1959年処女長編作『今晚おひま?』を発表。「ヌーヴェルヴァーグの従弟」のような作品と評されるが、風刺的でメランコリック、そして類をみない反体制的な作風で他とは一線を画し、メインストリームから外れた場所で、自由に映画を撮り続ける。ラブ・コメディから風刺的コメディ、犯罪映画や軍隊もの、政治的作品から幻想的な作品まで、ひとつのジャンルにおさまることなく、慣例化された制度、価値に反旗を翻し、アンナキーンな世界観や荒々しいまでのユーモアを刻印してきた。2019年8月8日死去。

モッキーの映画には、ユーモアとファンタジーがあるとともにメランコリー、暴力、そして悲劇も存在しています。——○ペール



ソロ

Solo  
フランス/1970年/89分/カラー/デジタル/フランス語  
出演:ジャン＝ピエール・モッキー、アンヌ・ドゥルーズ、デニス・ル・ギョ

ヴァイオリン奏者のヴァンサンは宝石泥棒でもある。弟のヴィルジルはアナキストのグループに属し、殺人にも手を染めていた。ヴァンサンはこれ以上殺戮が繰り返されないよう、警察に先回りしてヴィルジルを追いかける。

●アクションに次ぐアクション、そして演出のアイデア満載の本作は、68年五月革命直後についてのモッキー自身の考察から出発している。シニクなアンチヒーローを演じるモッキー、ジョルジュ・ムスタキのテーマ曲によって愁いを帯びたロマンチズムに包まれたフィルムノワール。

——○ペール

セルジュ・ボゾン  
Serge Bozon

1988年初長編作『友情』を発表。次作のミュージカルコメディ『モッズ』(2003)でベルフォール国際映画祭レオ・シュア賞、第一次世界大戦を描いたシルヴィー・テステュー主演の『フランス』(2007)でジャン・ヴィグ賞受賞。その後、『ティップ・トップ ふたりは最高』を発表(カンヌ国際映画祭監督週間)。最新作『マダム・ハイド』は、第70回ロカルノ国際映画祭で主演女優賞受賞。映画批評家として『カイエ・デュ・シネマ』、『So Film』などに寄稿。俳優としても『倦怠』(S.カーン)、『青の寝室』(M.アマルリック)などに出演している。



今晚おひま?

Les Dragueurs  
フランス/1959年/78分/モノクロ/デジタル/フランス語  
出演:ジャック・シャリエ、シャルル・アズナブール、ダニール・ロバン、アヌーク・エーヌ

土曜日の夕暮、ブレイボーイのフレディとまじめな銀行員ジョゼフは女の子を「ひっかかけ」に街に繰り出す。アン・バリッド、サンジェルマン・デ・ブレ、シャンゼリゼ通り、モンマルトル…様々な女性たちと出会い、彼女たちの人生を垣間見る。29歳のジャン・ピエール・モッキーが自伝的な要素を交えて撮った処女作。日本で公開された唯一のモッキー作品。



赤いトキ

L'ibis rouge  
フランス/1975年/87分/カラー/デジタル/フランス語  
出演:ミシェル・セロー、ミシェル・シモン、エヴリース・パイル

孤独な会社員ジュレミーは赤いマフラーで女性たちを絞殺してきた。同じ界限に住む賭博好きのレーモンは、借金を返済するために愛する妻のエヴリースに宝石を売るよう頼む。そんなふたりが出会い、ある計画が立てられる…。

●ファンタスティックかつポエティックにフランス社会を描いたモッキーの代表作のひとつ。本作が遺作となった偉大な俳優ミシェル・シモンへのオマージュでもあり、サン＝マルタン運河沿いで撮られた『素晴らしき放浪者』や『アタラント号』の記憶が蘇ってくる。——○ペール



ティップ・トップ ふたりは最高

Tip Top  
フランス＝ルクセンブルク/2014年/107分/カラー/デジタル/フランス語  
出演:イザベル・ユベール、サンドリーヌ・キペルラン、フランソワ・ダミアン、キャロル・ロシェ

フランス北部でドラッグの密売に関わっていたアルジェリア系の情報屋が殺された。警察署内部を探るため、ふたりの女性監察官エスターとサリが派遣された。ひとりば股りこみをかけ、もうひとりば覗き見る…そう、ふたりは最高のコンビ!

●ボゾンのはかつてゴダールが取った方法を応用してみせる。犯罪映画を口実に、まったく別のものを語る。では本作では何が語られているのか。おそらく傑出した前作のタイトルの中にその答はあるだろう、つまり『フランス』である。——○ペール



言い知れぬ恐怖の町

La Cité de l'indicible peur  
フランス/1964年/90分/モノクロ/デジタル/フランス語  
出演:ブルヴィル、ジャン＝ルイ・パロー、ジャン・ボワレ、ヴェロニク・ノルデー

逃亡した偽札偽造者の捜索に乗り出したトリケ警部は、オーヴェルニュ地方の村バルジュにたどり着く。そこには摩訶不思議な住民たち、出来事があふれていた…。ベルギーの幻想小説家ジャン・レーの原作をモッキーが映画化。撮影はラング、オフュルスらの作品も手がけたオイゲン・シュプタン。製作当時再編集を強いられしたが、監督自ら『ディレクター・カット』として蘇らせたバージョンで上映。



奇跡にあずかった男

Le Miraculé  
フランス/1986年/90分/カラー/デジタル/フランス語  
出演:ミシェル・セロー、ジャンヌ・モロー、ジャン・ボワレ  
監督・脚本:ザブール・ブライトマン & エリア・ゴベ・メヴェレック

非合法すれすれでなんとか暮らす気ままなパピュは、保険金欲しさに事故で足が麻痺したと偽り、献身的な元娼婦のサビースを引き連れてルルドへと偽の治療旅行に出発するが…。

●モッキーは、この緑日のような作品で多種多様な人々をこれまでに以上に鮮やかに浮かび上がらせてみせる。——○ペール



マダム・ハイド

Madame Hyde  
フランス/2018年/96分/カラー/デジタル/フランス語  
出演:イザベル・ユベール、ロマン・デュリス、ジョゼ・ガルシア

パリ郊外の高校に勤める内気な物理学の女性教師ジキルは生徒たちに見下されている。ある日、彼女は、実験中に失神し、神秘的で危険な力を感じるようになる。スティヴンソンの代表作『ジキル博士とハイド氏』を19世紀後半のブルジョワ社会ではなく現代のパリ郊外を舞台に、男性ではなく女性を主人公に自由に脚色されたボゾンの最新作。